

語註・典故・作詩メモ

・太清〓天。
・人我〓他人と我。

結句		転句		承句		起句		詩題
人	○	風	○	半	●	兀	●	
我	●	過	○	空	○	立	●	城市秋聲
閑	○	街	○	雲	○	高	○	
踏	○	樹	●	去	●	樓	○	
落	●	秋	○	月	●	切	●	
葉	●	聲	○	華	○	太	●	庚韻
行	◎	起	●	榮	◎	清	◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

読み下し文

人我 ^{じんが}	閑かに落葉を踏みて行く
風 ^{かぜ}	街樹 ^{がいじゅ} を過ぎて 秋声 ^{しゅうせい} 起き
半空 ^{はんくう}	雲去り 月華 ^{げっかは} 榮える
兀立 ^{こつりつ}	す高楼 ^{こうろう} は 太清 ^{たいせい} を切 ^き き
城市秋聲 ^{じょうししゅうせい}	

作詩日

令和三年九月七日

平仄式

仄起式

名前

牛山 知彦

[illegible][illegible]

文	し	下	み	読
颶風来襲 グフウ ライシュウ	年々歳々 ねん さい	豪雨凄然 ゴウウ セイゼン	山壑 サン ガク	蟠踞の住民 バンキョ ジュウミン
颶風 グフウ	颶風 グフウ	山壑 サン ガク	山壑 サン ガク	被害多し ヒガイ オオシ
来たる きたる	来たる きたる	推る シダク	推る シダク	被害多し ヒガイ オオシ
				急荒陪る たいこう くわわ
				如今の災禍 じよこん さいか

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絕句)

宇野次郎	平起式	平仄式
	名前	
	令和三年九月	作詩日

語註・典故・作詩メモ									
坊市↓まち									

結句			転句			承句			起句			詩題
西	○		深	○		踏	●		晩	●		城市秋声
風	○		夜	●		月	●		來	○		
吹	○		路	●		遊	○		坊	○		
葉	●		傍	○		吟	○		市	●		
助	●		蟲	○		不	●		入	●		
秋	○		語	●		問	●		新	○		庚韻
聲	◎		細	●		程	◎		晴	◎		

その他のメモ									

読み下し文									
城市の秋声									
晩來坊市新晴に入り									
月を踏み遊吟程を問わず									
深夜の路傍虫語細く									
西風葉を吹き秋声を助く									

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	名前
九詩期会 令三・九提出		
		岡嶋 宣昭

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ						結句			転句			承句			起句			詩題
靖蛉(せいれい) とんぼ 得(じん) ほどり みぎわ 異郷(いきよう) 自分のふるさとでない土地 交誼(こうぎ) 交友の情						近	●		異	●		城	○		風	○		
						日	●		郷	○		充	○		爽	●		城市秋聲
						迎	○		親	○		果	●		蜻	○		
						君	○		友	●		實	●		蛉	○		
						交	○		葡	○		感	●		池	○		
						誼	●		萄	○		秋	○		沼	●		侵韻
						深	◎		届	●		心	◎		潁	◎		

その他のメモ					
池にトンボが飛びかい、街中の店頭には桃や梨など秋の果実が並び始めた。そんな情景を目にして秋の気配を感じていたら、友人から葡萄が送られてきた。久しく会っていない友人に想いを馳せたことを詠いました。					

読み下し文					
城市秋聲					
風爽やか蜻蛉池沼の潁					
城に果実充ちて秋を感じる心なれば					
異郷の親友より葡萄届る					
近日君を迎え交誼を深めん					

作詩日	平仄式	仄起式	名前
令和三年八月末			高橋 幸雄

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
街衢：ちまた 籬落：まがき 青蟬：ひぐらし 晚暉：ゆうひ				青 ○	数 ●	籬 ○	街 ○	城市秋聲
				蟬 ○	刻 ●	落 ●	衢 ○	
				樹 ●	道 ○	庭 ○	風 ○	
				上 ●	遥 ○	楓 ○	穩 ●	
				晚 ●	到 ●	錦 ●	訪 ●	
				暉 ○	郊 ○	繡 ●	秋 ○	庚韻
聲 ◎	外 ●	萌 ◎	行 ◎					
読 み 下 し 文								
その他のメモ				城市 ^{ジョウシ} 秋聲 ^{シュウセイ} 街衢 ^{がいく} 風穩 ^{かぜおだ} やかに秋 ^{あき} を訪ね ^{たず} 行く ^{いく} 籬落 ^{りらく} の庭 ^{てい} 楓 ^{ふう} 錦 ^{きん} 繡 ^{しゅう} 萌 ^も ゆ 数刻 ^{すうこく} 逍遙 ^{しょうよう} 郊外 ^{こうがい} に到 ^{いた} れば 青蟬 ^{せいせん} 樹上 ^{じゅじょう} 晚暉 ^{ばんき} の聲 ^{こえ}				

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
R 3・8・30			武田 一郎

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
	聴 ○	可 ●	黄 ○	憂 ○	城市秋聲
	盡 ●	斟 ○	昏 ○	去 ●	
	庭 ○	醇 ○	雨 ●	初 ○	
	柯 ○	釀 ●	過 ●	知 ○	
	落 ●	疎 ○	露 ●	絡 ●	
	葉 ●	簾 ○	華 ○	緯 ●	庚韻
	聲 ◎	内 ●	清 ◎	鳴 ◎	
その他のメモ	読み下し文				
	聴き尽くす庭柯落葉の声	斟むべし、醇釀疎簾の内	黄昏雨過ぎ露華清し、	憂い去り初めて知る絡緯の鳴くを	城市秋聲

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	仄起式	名前
令和三年七月三十日			平賀康雄

語註・典故・作詩メモ							結句		転句		承句		起句		詩題	
							江	○	消	○	仰	●	狂	○	颱風一過	
							辺	○	去	●	見	●	風	○		
							涼	○	蟬	○	満	●	一	●		
							意	●	鳴	○	天	○	過	●		
							足	●	残	○	秋	○	立	●		
							清	○	暑	●	色	●	橋	○	尤韻	
							幽	◎	退	●	浮	◎	頭	◎		

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ							読み下し文																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

江^{こう}辺^{へん}の涼^{りよう}意^いは清^{せい}幽^{ゆう}に足^たる消^きえ去^さる蟬^{ぜん}鳴^{めい}に残^{ざん}暑^{しよ}退^{しりぞ}き仰^{おほ}ぎ見^みる満^{まん}天^{てん}に秋^{しゅう}色^{しき}浮^うかぶ狂^{きやう}風^{ふう}一^{いつ}過^か橋^{きやう}頭^{とう}に立^たてば詩^し題^{だい}の読^よみ

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和三年九月七日			古川 彌

語註・典故・作詩メモ

揺蕩 揺れ動く
濛々 薄暗い

結句

転句

承句

起句

詩題

颱風襲来

東韻

失
家
人
悲
豈
易
同濁
流
襲
撃
村
村
屋揺
蕩
窓
戸
昼
濛
濛嘯
雨
鳴
条
起
大
風

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

読み下し文

作詩日

平仄式

仄起式

名前

令和三年

松本祐輔

たいふうしゅうらい
颱風襲来

あめ うそぶ じょうな
雨に嘯き条を鳴らし
おおかせお
大風起こる

そうと ようとう
窓戸を揺蕩し
ひる もつもう
昼濛々

だくりゅうしゅうげき
濁流襲撃
むらむら
村々の屋

いえ うしな ひと かな
家を失いし人の悲しみ
あにとも
豈同にする易からんや

その他のメモ

語註・典故・作詩メモ

工夫：仕事に費やした時間と努力。努力、修行。

秋が来た。芸術と文化の秋です。この時期、あちこちで吟詠大会が開かれます。ところが、昨年から居座っているコロナ感染症が猛威を奮っており、横浜市は施設の使用を許可してくれません。

大会を目標に練習に励んできたのに。今年もその披露できる場がないようです。

結句		転句		承句		起句		詩題
歳	●	港	●	留	○	夏	●	
餘	●	城	○	聯	○	去	●	城市秋聲
工	○	未	●	疫	●	秋	○	
夫	○	許	●	鬼	●	聲	○	
盡	●	開	○	勢	●	起	●	
作	●	催	○	威	○	四	○	先韻
煙	◎	事	●	巔	◎	邊	◎	

読み下し文

歳余の工夫尽く煙と作る

港城未だ催事の開くを許さず

留連せる疫鬼勢威巔なり

夏去り秋声四辺に起こる

城市秋聲

(七言絶句)

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

作詩日	令和三年九月六日	平仄式	仄起式	名前	三浦昭二
-----	----------	-----	-----	----	------

その他のメモ

語註・典故・作詩メモ

①結句——此姿深念死生窮
 ②結句——此姿使念我生隆
 この姿我が生の隆むるを念はしむ
 ②は力強く生きてゆきたい意を と考えましたが
 感じるところが良く表出出来ないのが歯痒いです。

その他のメモ

昨日7月の批正が届き今回9月の起句と重なりびつくり、
 起句——高天如水と、承句——意自如たり、如が重なりま
 すので、7月の起句は高天一碧暑威疎なりとしたいと思ひ
 ます。

結句	転句	承句	起句	詩題
此	夕	曳	碧	城市秋聲
姿	暮	杖	天	
深	残	街	如	
念	蟬	坊	水	
自	有	紅	素	
生	終	樹	秋	
窮	美	豊	風	東韻

此の姿深く念い自ずから生窮まる

夕暮残蟬有終の美

街坊に杖を曳けば紅樹豊かなり

碧天水の如く素秋の風

城市秋聲

(七言絶句)

平仄式	平起式	名前	諸星暢義
作詩日	令和三年9月提出	初稿	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

平仄式	平起式	名前	山口 幸雄
作詩日	9月8日		

詩題				起句	承句	転句	結句
城市秋聲				涼風拂暑發籬花	老懶怡顏啓閉家	城市行人皆口罩	不能忘疫只長嗟
麻韻				りようふう しょ はら りか ひら	ろうらん かお よろこ へいか ひら	じようし こうじん みな こうどう	えき わす あた ただちようさ
				涼風 暑を払って籬花を發き、	老懶 顔を怡ばして閉家を啓く	城市の行人 皆口罩	疫を忘るる能わず 只長嗟す
その他のメモ				ようやく 涼しい風が吹いて垣根の花が咲いた。 怠け者も嬉しくなつて、籠っていた家から外へ出た。 街行く人々は皆マスクを付けている 秋が来たからといって、コロナのことを忘れることはできない。ただ長いため息が出た。			
語註・典故・作詩メモ				○老懶 年老いて物事をするのがおつくうであること ○怡顏 顔色をやわらげる。にこにこする。 ○口罩 マスク ○長嗟 深くため息をついて嘆く。			